

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編vol.10

さて、前回までで、アイオニアン、リディアン、ミクソリディアンの3種において、基本的なポジションを弾いてみましたね。

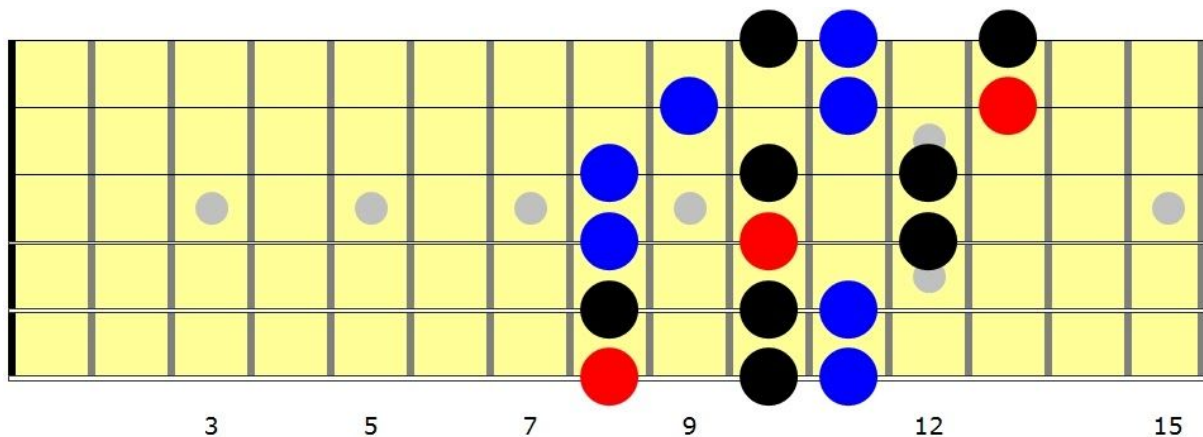
これで、チャーチモードの中のメジャー系スケールは全てになりますので、次はマイナー系のスケールに入っていきます。

やることとしては、マイナー系の基本スケールである「エオリアンスケール」とメジャー系の基本スケールであるアイオニアンスケールを見比べて、構造を理解していきます。

まずはざっと、6弦トニックの方で音の配置を見くらべてみましょうか。

トニックは今まで通りC音に統一します。

図1、Cエオリアンスケール、3nps、6弦トニックポジション

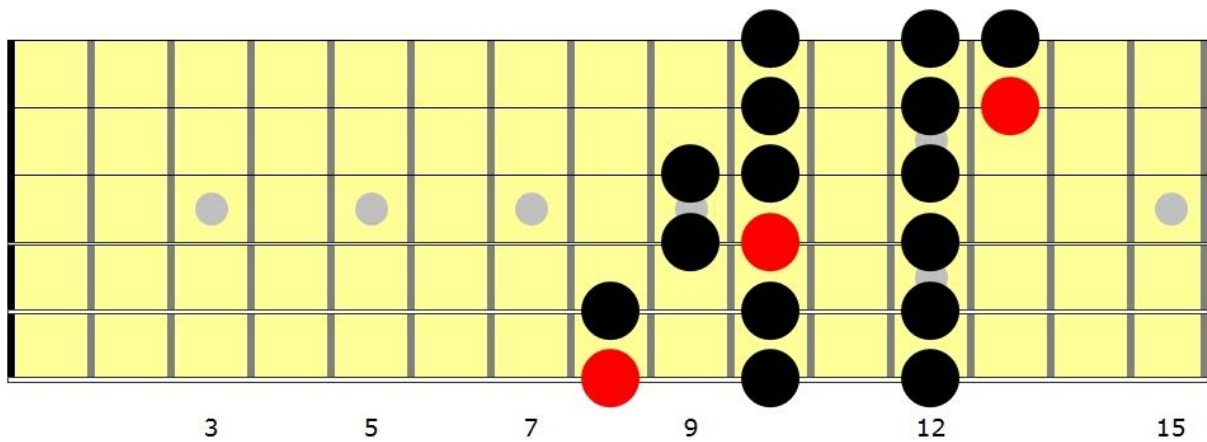


※各弦の指使いもこれまでのテキストと同じです。

こうして図だけを見ると、今まで弾いてきたメジャー系のスケールからは、変化があり過ぎて把握しにくいかもしれませんが、細かい違いは後半で見ていきますのでサッと弾いてみましょう。

そして、僕たちお馴染みのアイオニアンスケールはこうなっていましたね。

図2、Cアイオニアンスケール、3nps、6弦トニックポジション



さて、まずは細かく構造を比較してみると、両者のインターバルは、

・エオリアンスケール
 tonic、M2nd、**m3rd**、P4th、P5th、**m6th**、**m7th**

・アイオニアンスケール
 tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、M7th

となっています。

見ての通り、3、6、7度の音が半音低くなっていますね。

このテキストに載せているエオリアンの図では、全て、その3種の音を青丸にしてあります。

ここまでがわかった所で、音の変化をわかりやすくするために、この講座で強く推奨している1オクターブの範囲で確かめてみましょう。

図3、Cエオリアンスケール、3nps、6弦トニックポジション、1オクターブ間

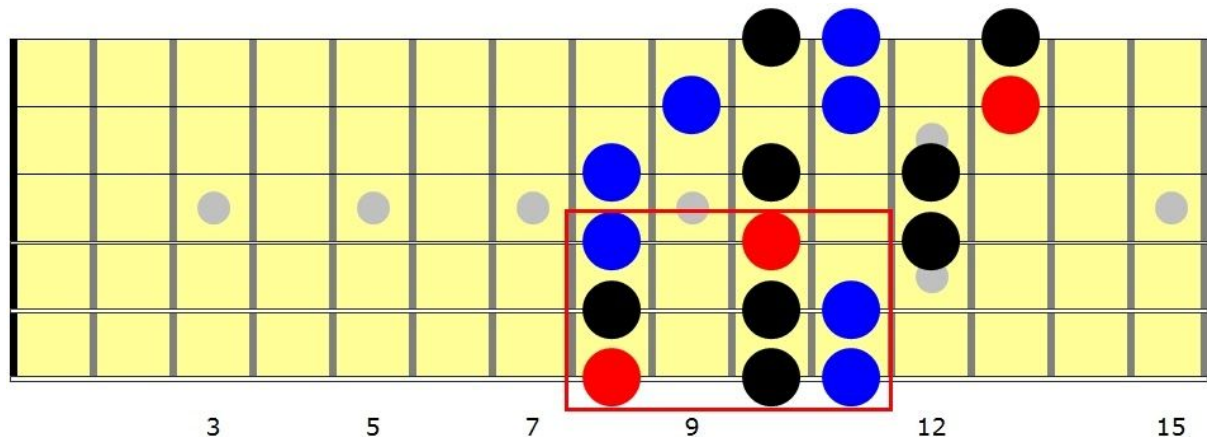
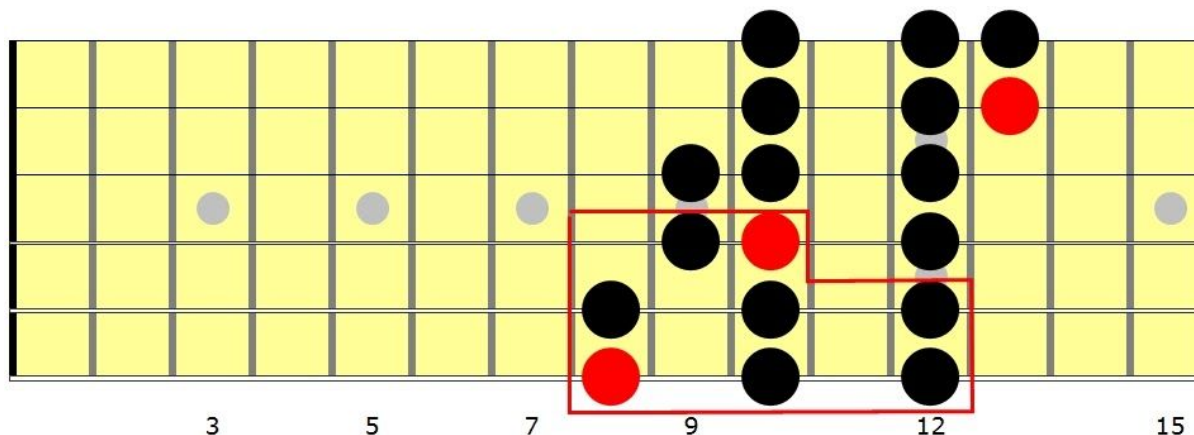


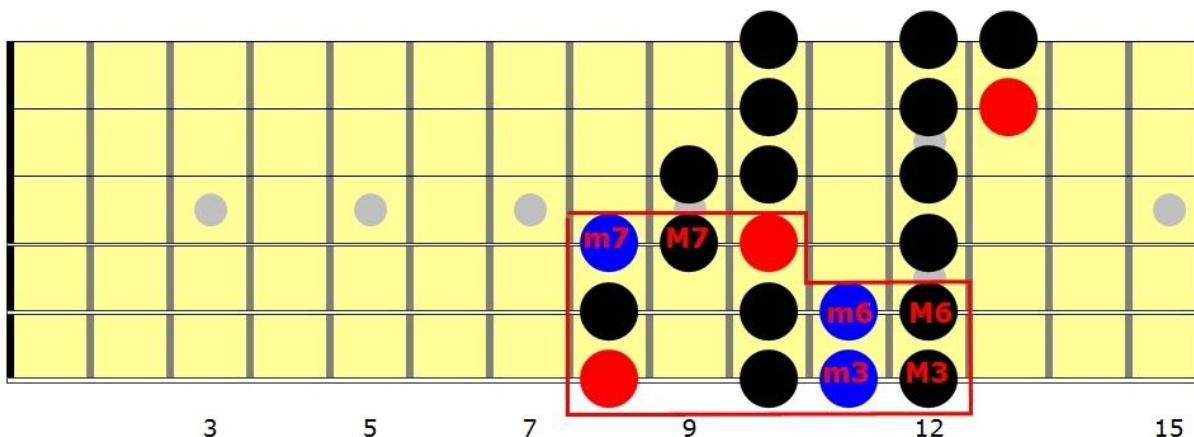
図4、Cアイオニアンスケール、3nps、6弦トニックポジション、1オクターブ間



先ほどもお話したように、この二つのスケールでは、3、6、7度の音が変わっていますね。

上記図の1オクターブの範囲で、両者の構成音を一度に見るとこんな感じになっています。

図5、アイオニアンとエオリアンで出てくる音、6弦トニック、1オクターブ間



3npsスケールのポジションだけを見ると、全く別物と言って良いほど変化しているように見えるかもしれませんが、実際はスケール構成音7音の内、3音が変わっているわけですね。

(※7音中の3音が変わっているのに、大きな変化と言えそうですが笑)

そしてその内、基礎理論としては『3度(3rd)の音が、“スケールが、メジャー系orマイナー系のどちらになるか？”を決める音』となりますね。(※M3rdを含めばメジャー系、m3rdを含めばマイナー系)

後は、他の教材でも少しお話していますが、スケール構成音の中に「m(マイナー)」の付く音が増えれば増えるほど、(基本的には)全体の響きが暗くなっていきます。

他にも、インターバルの分類には、「dim(ディミニッシュド)」や「aug(オーギュメンテッド)」など可変の種類がありますが、これらはまた別の機会に解説したいと思います。

(※かなり大雑把に言ってしまうと、これらはより「不安定(な響き)」に向かう様な印象の変化です)

とすることでまずは、以下の譜例の様に、この範囲の中でインターバルをきちんと把握し、正確に弾き分けられるようにしましょう。

譜例1、アイオニアンとエオリアンの弾き分け、1オクターブ間、6弦トニック

(※左がアイオニアン、右がエオリアン)

これに慣れてきたら、続いて、4弦のトニック(今は10フレットC音)周辺から始まる範囲も弾いてみましょう。

両スケールで使われている音は、このようになっています。

図6、アイオニアンとエオリアンで出てくる音、1オクターブ間、4弦トニックポジション

こちらの譜例は以下になります。

譜例2、アイオニアンとエオリアンの弾き分け、1オクターブ間、4弦トニック

(※上段がアイオニアン、下段がエオリアン、どちらも4弦10フレットに中指を置いてスタート)

と、言うことで、以前から載せているこの指使い図などを参考に、

※15フレット付近からそれ以上のハイポジションで弾く場合等

- ・どの弦に、どの指使いが、どういう順番で来ているのか？
- ・それぞれの音のインターバルは何か？

辺りをしっかり確認しながら、繰り返し弾いてみてください。(※最終的には、目をつむっても弾けるくらいが理想です)

ちなみに今回、1弦の音を弾く譜例は載せていませんが、2弦13フレットのトニック(C音)で終わる感覚を掴めたら、ポジション全体として弾き切る練習もしておきましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼